



59号 2013.11.20



<大特集>

第37回

アイメイト・デー開催<1~8ページ>

TOPICS

- ユーチャリス・ふれ愛チャレンジコンサート
&塩屋賢一とアイメイトの歩み展in古河(茨城県)
- パイロットクラブ主催アイメイトチャリティコンサート
- 続・太鼓で交流してます「発表会の巻」
- お店の人と話して考えたこと・・・～ある後援会員の体験より～
- 後援会員へインタビュー 松野洋子さん
- 企業の支援-アイメイトを応援する3社の紹介-

協会だより

アイメイト卒業生人数
アイメイト募金実績報告
アイメイト誌No.45が発行されました

連載記事

- 最終回「飼育日誌」～たくさんの思い出をありがとう～
- 連載2回目 元アイメイト使用者橋本三郎さんに聞く
「菜の花募金の思い出」
- 後援会メンバー紹介(大西 一生さん)
(松本明子さんとレナード&クリスタル)
- 同窓会自己紹介リレーはお休みです。

後援会からのお知らせ

- これまでの行事・活動&これからの行事・活動
- 後援会HPよりブログ「グッズサイドストーリー」
- アイメイト募金芳名録
- 役員会議事抄録
- 会員のページ
会員だより…水野玲子さん、佐々木優子さん
- 2014アイメイトサポートカレンダー完成(裏表紙)



たくさんの
グッズが
売れたよ!

アイメイト・デーにて

アイメイト・デー 開催

第37回

特 集



日程：2013年10月6日（日）13:00～15:50

場所：京王プラザホテル

参加者：計347名

（うちアイメイト使用者は55組。アイメイト協会卒業生、アイメイト後援会、飼育ボランティア、関係企業・団体など）



2013年10月6日（日）、京王プラザホテル（東京都新宿区）にて、「第37回アイメイト・デー」が開催されました。協会活動の報告、使用者や支援者たちがアイメイトを語るコーナーなど、相互理解を深める楽しい会でした。参加者は合計347名。うち、アイメイト使用者は、55組。そのうち1名は、シンガポールから来日して歩行指導を受け、この10月に卒業した方です。

視覚障害者の歩行問題解決のために これからも一生懸命仕事をしていく

- 今年5月には、1200組を超えるペアが卒業
- アイメイトの技術は海外からも高く評価

アイメイト協会 塩屋隆男代表理事から、挨拶と協会事業についての報告がありました。今年5月には、1200組を超えるペアを送り出すことができ、また、その後の歩行指導により、1211組のペアが卒業したということです。

中でも、直近の卒業生の一人は、シンガポールから来日しての歩行指導ということで、「外国の方からも高く評価されるようなことは、技術集団として非常にうれしい」とコメントを述べました。



また、大勢の方々の支えによってアイメイト協会があること、そして、そうした方々への感謝の言葉が述べられました。

最後に、アイメイト協会の進むべき道として、「視覚障害者の歩行問題解決のお手伝いをするということが最大の使命」とし、今後の抱負として「これか

らもより使いやすいアイメイトを訓練して、そしていい歩行指導をして、一人でも多くの皆様に歩く不自由を軽減して、活躍していただきたい。今日もこの席で感謝の気持ちを申し上げるとともに、これからも一生懸命仕事をしてまいります」と話しました。

「アイメイトを語る」

◎アイメイト使用者 なか わたる 中 済 さんの話

■ アイメイトと一緒に歩き始めて。

■ 「身体全体で風をふわあっと感じる。」

（「オートハープ」という楽器を持って登場。お話の前に、弾き語り。）

神様から譲っていただいたアイメイトです。白い杖を使ってどこへでも自由に歩き回っていた私が、なぜかいま、アイメイトと歩いています。冬、春、夏、そしていま秋を迎えて、アイメイトは2歳。一緒に1日、1万歩、2万歩を歩いています。

アイメイトと歩くことですごく変わったことがあります。いままで白い杖で歩くことと、一步一步が全然違うんですね。見えてくるものが、感じてくるものがどんどん変わってきている。360度周りが開けたんだなあ、顔を風がふわあって、そんな感じがすごく肌全体で、顔全体で、身体全体で感じるのが、アイメイトと歩いていてうれしいなって思います。

私はマラソンもします。今年、北海道サロマ湖100キロマラソン、そして長野と、アイメイトを連れまわして、ホテルに缶詰にしてみたり。アイメイトにしてみたら、「変なご主人とペアになってしまったなあ」「寝て待つしかないか」という感じです。

職場では私はコンピューター関係の仕事をしていますので、デスクワークでほとんど座りっぱなしです。私の足元で、足を伸ばしたり、ロッカーの脇に足をかけて、ひっくり返って寝ています。



寝るのが商売かなあ、という感じです。

歩く時、塩山先生が厳しく育てたのか、本当に訓練通り歩いてくれます。今は少し慣れてきましたので、階段からエスカレーターを選ぶテクニックを覚えまして、主人としては体重を増やしたくないし、やっぱりマラソンのこともあるので、階段を上りたいよなと思うのですが、でも、なぜかエスカレーターのほうへしぶとくしぶとく…、「僕はエスカレーターで行くんだ」と。その割には、エスカレーターに乗るのになかなか躊躇するのですが、階段を省いております。

そんなアイメイトとこれからも一步一步、全国の友達に会いに行こうと思います。そしたら、一步一步が大きく強く、踏み出すことができます。（「オートハープ」で弾き語り。）

ありがとうございました！

◎飼育奉仕 とみさわ 富沢ゆき子さんの話

■ 5頭の子犬たちは、私の人生の宝物

■ ワンダフルなアイメイト生活

11年前に飼育奉仕を始め、3頭目と4頭目がアイメイトになり、5頭目の子を今年、協会に返しました。我が家では、1年間子犬を預かった後、1年くらい飼育奉仕をお休みして、その子がアイメイトになれるかどうか様子を見ています。

飼育奉仕を始めたきっかけは、マンションから主人の実家の、庭のある一軒家に引っ越したことです。築40年ほどの古い家だったので、建て替えの予定がありました。当時小学生だった子供たちはすぐ友達ができましたが、私は少し寂しく、テレビや本で感動した盲導犬の子犬のお預かりなら1年間という期限付きなので、実は「お試し」感覚で申し込んだのでした。

申し込みから3カ月後に、我が家に来たオスの黒ラブくんは、生後2カ月で体重は6キロもありました。トイレの躰はさほど苦労せず、夜泣きもしないし、人なつっこい犬でした。

その子は、留守番をしていて、家族が外から帰って来た時の喜び方が最高でした。しっぽを横にブンブン振るのではなくて、グルグル回すんです！しかも途中で逆回転もできちゃうんです！！それを見ると私たちもとても嬉しく、幸せな気持ちになりました。

お試しのつもりが、賢くて明るく、元気なこの子のおかげで、再び子犬を預かることに迷いはありませんでした。家の建て替えも、ラブラドルの体格に合わせたドッグドアをリビングに付けたり、お勝手口を洗面所に付けて、外の足洗い場から洗面所に入れるようにしました。

1年後のお別れは、もちろんつらくてものすごく寂しいです。巣立った後は、犬がよく寝ていた場所につい目がいつてしまったり、夜、リビングで一人静かな時間になると思い出して泣いてしまったり…。私は4頭目の子の時が特にひどくて、お別れの日1週間前から散歩の途中で涙が出てきてしまうほどでした。

でも、寂しいといっても、死に別れの悲しさとは違います。子犬には明るい未来があり、どこに



行っても愛され大切にされる将来があるとわかっています。全寮制のアイメイト協会に留学し、卒業したら住み込みで就職したか、使用者さんのお宅に嫁に出したか、と思っています。

私の場合、巣立ちの別れよりもつらくて悩んだのが、不適格になったと連絡をもらった時でした。ペットとして我が家で引き取るか、よそのお宅で幸せになってね、と引き取らないか、決断しなければならなかった時でした。引き取ると、飼育奉仕はもうできません。でも引き取らない自分は冷たいのではないかと悩みました。1頭目の時は、お別れからちょうど1年経ち、次の子犬を繁殖家庭で見た後に不適格の電話をもらいました。1週間くらい悩み、自分の口からは引き取らないと言えなかったのが、手紙を書きました。2頭目の時は、後援会の人から言われた「自分の家から1頭がアイメイトにしたいと思ったらいんじゃないか」という言葉にすぎりました。

今年、5頭目の子犬が巣立った後は、今までに感じたことのない達成感があり、自分でもびっくりしているのですが、泣かずにすみしました。

体重5キロくらいが1年間で20キロを超えるほどの成長の速さ。子犬は手がかかるけれども、すぐ家族になじみ、次々といろいろなことを覚えてできるようになっていきます。確かな愛情と1年間の思い出。そしてその子が、アイメイトになれば、うれしくて、誇らしい。

我が家で育てた5頭の子犬たちは、全部運命の出会いで、私の人生の宝物です。飼育奉仕に興味があるけど、ちょっと迷っている人がいたら、ワンダフルなアイメイト生活へ、私が背中を押してあげます。

■目を患った私の左横に寄り添ってくれる
■現在、16歳と4カ月。まだまだ元気なセーヌ

私がリタイア犬のセーヌを飼い始めたのは、ちょうど5年前でした。名前を聞いてすぐ、「うん。うちで飼おう」と二つ返事で引き受けました。

しかし、私のところに引き取って、わずか2週間で、半分現役復帰することになってしまいました。というのも、引き取ってからわずか2週間で私が突然、目の病気を患いまして、一時は失明を覚悟してくださいと言われました。非常にショックでしたし、驚きもしました。すぐに処置していただき、結果的に失明しなくてすみました。私もアイメイト使用者の皆さんと同じ席に座る可能性がありました。

その時、私が家に帰ったら、セーヌが私のすぐ左横にぴたっとついてくれたんです。リタイアしたばかりのセーヌは、私の目がおかしいというのをすぐに感じとって、私の左横について、家の中を私が壁伝いに歩いているときも、すぐにぱっと私の左横に来るのです。

これには驚きました。私の様子を見て、すぐに私の横についてくれるのです。私が散歩に連れて行く時と、家内が散歩に連れて行く時で、態度が全く違う。犬仲間の人たちにも「ああ、セーヌちゃん、お仕事してるんだね」と言われるんです。

その時は、私はセーヌに申し訳ないことしたなあ、せっかくのんびりさせてあげようと思ったのに仕事させることになってしまって、いやあ、申し訳ないなあと思ったのですが、セーヌは喜んで仕事するんですね。私が見えてて自分で歩いているときというのは、職にあぶれているわけですから、しょんぼりしているんです。で、夕方暗くなったり、まぶしかったり、私が手探りで動くような状態になると、どこからともなくやってきて、私の左横にぴたっとつくんです。本当に、仕事がしたくてしたくてしょうがないんです。

アイメイトは、こういう言い方をしては申し訳ないのですが、つらい思いでお仕事しているのかなって思っていたんですね。ところがこうしてリタイア犬を飼ってみますと、アイメイトたちは喜んで仕事してる。いま、セーヌの最大の喜びと



いうのは、私の出勤の時、家内の運転する車と一緒に乗って私の会社まで行く。で、私が会社にちゃんと行くのを見届けてから家に行く。で、のんびり家でお休みをする。それが、どうもセーヌの最大の喜びのようです。昼間はもう、のんびりお昼寝をして、夕方家内が散歩に連れて行ってくれるのをじっと待っている。そういう毎日を送っています。

セーヌは11歳の誕生日の直前でリタイアしまして、5年過ぎて、今、16歳と4カ月です。人間の年齢にすると、122歳くらいといいます。まだまだ元気で、自分の足で歩いています。ただ、やはり、そういう年齢ですから、もうトイレはほとんどわかりません。もういつ出たかもわかりませんし、もう出ても悲しいというそぶりも、とうとうしなくなっていました。

来年また、このアイメイトデーの時に、「セーヌはまだ元気ですよ」と言って皆さんにお話しできるように、これからもセーヌに情熱を注いでいきたいと思っています。



■20年にわたる後援会活動の思い出
■一緒に活動したすべてが大切な宝物

私がアイメイトと関わりを持つようになって、丁度20年になります。いまから20年程前の1993年夏、長崎にさだまさしの野外コンサートに行った時、1人で東京から来ているアイメイト使用者の松方アヤちゃんと知り合いました。アヤちゃんは、当時まだ大学生でした。

話していると家も近いということで、東京に戻ってから、おつきあいが続きました。そして、彼女から、新しい施設を建てるために「菜の花募金」という活動をやっているのだから「手伝って」と頼まれました。

犬が大好きだったし、仲のよい友人と2人で喜んでその活動の仲間に入れていただき、張り切ってグッズの販売や募金活動に参加しました。知らない街に行き、グッズ販売や説明をし、そして色々な方たちとおしゃべりするのをとても楽しく思いました。

「菜の花募金」の活動は、3年で目的を達成し、終了しました。いまの関町北にあるあの新しい施設が出来上がったのですが、引き続きアイメイト後援会という形で改めてアイメイト協会を支援していくことになり、今に至っております。

後援会の方々はみなさん、アイメイトを応援する気持ちが強く、一生懸命がんばっています。とくに鈴木会長ご夫妻はずっと繁殖犬も飼っておられて、もう生活の一部として、その熱意はボランティアの域を超えているのではと感心しています。

わたしも一度、飼育をして子犬を預かりました。その子は訓練を経て、鹿児島の使用家の元でアイメイトとしての仕事をまっとうして一生を終えました。

その後、クエーカーというチョコラブのお父さん犬（繁殖犬）を預かりました。当時、チョコラブは珍しく、あちこちのイベントで人気があり、とても可愛がられました。7～8年我が家の家族としてかわいがられていましたが、5年前に亡くなりました。

最初にアイメイトと関わりをつくってくれたあのかわいい大学生だった松方アヤちゃんも、その後、結婚して、なんと4人のお母さんになっています。高校生、中学生、小学生の4人のお子さんを立派に



育て、アイメイトと一緒に頑張っています。20年の歳月はこんなふうに、人間の成長の素晴らしさを感じています。

最後に一つ残念なこと。10年前でしたか、やはりこうしてアイメイトデーの壇上で後援会のお話をしたときに、あのアイメイト協会の横に広いキャベツ畑があったんですけど、私はそこに目をつけて、「宝くじでも当ててあの土地を買い取って、アイメイトの施設を広げたいな」と、夢を話したことがありました。そのキャベツ畑には今、立派なマンションが建ってしまいました。

この20年を振り返ると、もし私がアイメイトに関わっていなかったら、犬を飼うことも無く、見知らぬ土地へ行ったりすることもなく、ボランティアとしての楽しさを味わうこともなく、ただ、ただ、ただとした人生をおくっていたのではないかなと思います。後援会の皆様と知り合えたこと。残念なことに去年、後援会を長く支えてくださった平井さんが亡くなりましたが、皆様と様々な活動と一緒にしてこれたこと、すべて大切な宝物です。ありがとうございました。



■ やめようと思ったこともあった
■ できる限りのことを、皆様にお返ししたい

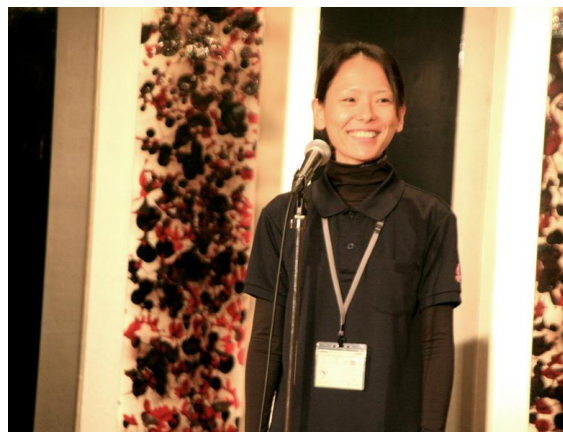
私は、今年、9年目になりました。8年目あたりから、すごく大きな節目があるなあと感じています。ちょうどいま、1年目2年目でいらっしやっていた生徒さんが、また新たなアイメイトをもらいに来ている時期に入っています。そしていま、私は歩行指導員として、その方々に指導する立場になっています。なので、とても大きな節目を迎えていると、自分自身で感じています。

私がアイメイト協会に就職したいと思ったのは、小学校5年生の時でした。とくにアイメイト協会と他の協会との違いもとくに理解しておらず、漠然と盲導犬の訓練士になりたいというふうに思っていました。そして、ご縁があって協会に就職することができました。

9年間仕事をしてきて、いろいろ壁にぶつかったこともあります。そして感動したこと、うれしかったこと、たくさんの思いを持っています。

一度だけ、協会のこの仕事をやめようかと思ったことがあります。1年半前、体調不良を起こしました。ご存知の方もいらっしゃると思いますが、「潰瘍性大腸炎」になりました。協会から家までの徒歩5分という道のりでも、お手洗いにいきたくて仕方がない。訓練をしていても、こうどこか下腹部に鈍痛を感じたり、トイレに行きたいという状態が続いていました。薬を飲んで、働きながらい状態に持って行きましょうと、主治医の先生と話をしていました。ですけど、なかなか思うようにいかず、主治医から、長期休暇を取ってくださいとドクターストップがかかりました。

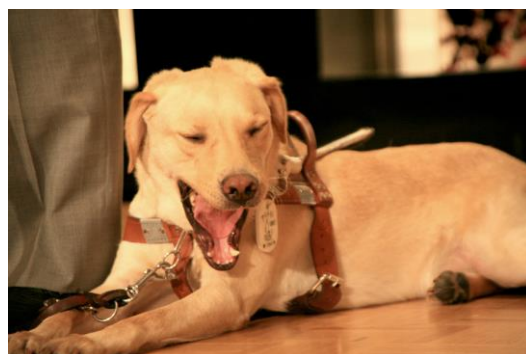
この時、皆様がこのように協会に対してものすごく熱い思いを持ち、熱い気持ちを私たちにぶつけてくださっているのに、私自身がそのものを最高に返せないような状態でこの仕事を続けてよいのか、悩みました。その時、理事長に相談したら、「職員は協会の宝です。とにかく体調回復に努めてください。横山さんが居ない間のことは他の職員でカバーします。なので、しっかりと体を治して、仕事復帰をしてください」と言っていただきました。



私は自分自身で勝手に、私はもういないんじゃないか、私はもうできないんじゃないかと決めつけていました。しかし理事長をはじめ、他の職員にサポートしていただき、現状、歩行指導も訓練も行っています。そしてこの間、検査を行って、「寛解（かんかい）」といういい状態に入ることができました。ありがとうございます。

体重がその時から比べて7キロほど落ちたので、みなさん久しぶりに会うと、「ちょっと痩せたんじゃない」と言われることが多いです。歩行指導の方で生徒の方と同じ食事をとらなくてはなりません。しかし、食事制限があって動物性タンパク質がとれないのですが、生徒さんとはじめの方にきちっとお話しして、歩行指導にも入らせていただいています。

なので、今私ができる限り、できる分のことを、皆様にお返ししたいと思っています。協会職員全員が、日々、アイメイトに向き合い、アイメイト使用者に向き合っているということ、そのことを、皆様に今日、このようにして伝えることができとてもうれしく思っています。今後とも、アイメイト協会、職員ともによりしくお願いいたします。





■「誘導」スタッフは計20名
■新宿駅前からホテル内までを誘導

「誘導」は、スムーズな会の運営のために、とても重要な役割を担っています。新宿駅西口から京王プラザホテルまで、要所要所に計20名のスタッフを配置し、アイメイト使用者が道に迷わずスムーズに会場入りできるよう、「声」でサポートします。

「声」の誘導は、こんな感じで行います。まず、アイメイト使用者を見つけたら、大きな声で「こんにちは、後援会です！」そして、「このまままっすぐ進んでください」「この交差点を左に曲がります」「エスカレーターを上がってください」というふうに、これから進む方向を声で伝えるのです。

今回は、京王プラザホテルまで、新宿駅西口から地下通路を通り、ホテル内を歩いてワンツー場所に立ち寄り、そこから会場ホールまでを案内しました。

また、使用者が途中でルートを見失った場合も想定し、「よくわからないという方から連絡が入った場合は、西口交番を目指していただき、そこから誘導する」という準備もしました。



■「受付」スタッフは9名
■使用者、来賓などを分担して

入口での受付業務も、アイメイト後援会がサポートします。計9名のスタッフが、使用者、来賓などと分担し、お名前を確認します。また、広報対応として、この他2名がサポートしました。

■「グッズ販売」は7名で担当
■アイメイトサポートカレンダーも販売開始

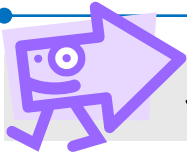
会場の入口脇には、グッズ販売のコーナーを設置し、スタッフ7名で、各種サポートグッズを販売しました。アイメイト・デーではすでに恒例となりましたが、新しい「アイメイト サポートカレンダー」が発売開始となりました。

開催前、休憩、開催後など、多くの方がグッズコーナーに立ち寄ってください、この日は1日で、約51万円の売上げとなりました。この利益は、全額後援会を通じてアイメイト協会へ寄付されます。

■もっともっと増えてほしい
■「補助犬トイレ」

京王プラザホテルには、「補助犬トイレ」が設置されています。ウッドデッキなどあって雰囲気もよく、水で洗い流すことができる清潔なトイレです。

使用者は、どこへでも出かけられるようになった一方で、極端に都市化が進む近年、ワンツー場所が悩みという方も増えています。こうした設備が、もっともっと増えてほしいですね。



初めて後援会活動に参加した方のご感想

アイメイトデー☆優しさ

鈴木正之さん

7年程前に吉祥寺駅周辺で、訓練をしている盲導犬を何回か見かけ、頑張っているんだと思っているうちに10月6日のアイメイト・デーの初めてのお手伝いとなりました。

新宿駅西口での案内を担当しましたが、同窓会の方々があの雑踏に躊躇することなく、やって来るではないですか。そして私の脇をスーッと通り過ぎて行く。ちょっと待って下さいと言いかけた自分がおかしくなりました。私の方が自分のお仕事が全然見えていなかったのです。

その後聞いた「アイメイトを語る」では、アイメイトが多くの方々の優しさから、使用者の方との信頼関係につながり、そして優しさの中に戻っていく流れに、何と言ったらよいのでしょうか感動を受けました。

今回の案内では、「アイメイトって何ですか?」、「今から見に行ってもいいですか?」と声を掛けられる様な笑顔でいこうと思っています。

使用者、多くの関係者（大丈夫かなと気遣い通り過ぎる方も含まれるでしょう）とアイメイトがみんなて築いてきた優しさと信頼の絆のお手伝いがあることの誇りを持てたアイメイトデーでした。

アイメイトデーに参加して

久保田弘文さん

10月6日（日）、台風の影響で天気が心配でしたが、当日は雨が降ることもなく、10月にしては少し暑いくらいでした。

私はホテル内の誘導を担当しましたが、通路の両側は各種レストラン。屋前のバイキング形式のお店の前には、たくさんの方が並び、オープンまで通路の半分近くが家族連れなどで埋まっていました。早めにみえた使用者・アイメイトは、歩きにくそうでした。

私は慣れていないので、「こんにちは、こちらです」「この道をまっすぐ行って、右側のエスカレーター

で上の階へお願いします。別の係員がお待ちしています」と同じセリフを何十回も繰り返していました。

私は犬が好きなので、遠くに「アイメイト」を見つけると、ついほほえんでしまいます。アイメイトは、本当に、賢くて、かわいい、そしてえらいと感心しています。

「アイメイト・デー」に参加して、気がついたことを3点申し上げます。

①ある男性使用者をトイレ内に案内した時、水をやりたいのでこの容器に水を入れてほしいと言われました。蛇口から水を入れて、犬の口元に持っていきましたが飲もうとしません。ホテルのサービスで水が温めてあったからです。犬は温かい水が嫌いなのだと、初めて知りました。次回からは、アイメイトデーの時間帯は、ホテル側に「トイレの蛇口の水を温めないでほしい」と事前に伝えた方がよいかもしれません。そして、「ワン、ツー」の場所と同時に、たくさん歩いてきたアイメイトに、冷たい水を用意しておくというのは、どうでしょうか。

②「参加アイメイトの自己紹介」は楽しい時間ですが、マイクをまわして名前等を言うだけでは、物足りない感じがします。遠くから、わざわざみえたのですから、時間がかかってもアイメイトと一緒に前に出て、自慢のアイメイトをみんなに紹介してほしいかったです。（以前、どこかの講演会でビデオカメラで撮り、その映像を大きなスクリーンにうつすというのがありましたが、ホテルにその様な設備がありましたら利用してほしいです。）

③こういう会に来ると、参加者はだいたい元気な女性がほとんどで、男性は非常に少ない。男はどこでなにをしているのでしょうか。男性がもっと増えるといいなと思いました。

よく事情がわかっていない者の文章を、最後まで読んでいただきありがとうございました。アイメイト活動のますますの発展をお祈りいたします。



去る9月23日(月・祝)、茨城県古河市生涯学習センターにて、「盲導犬の父 塩屋賢一とアイメイトの歩み展in古河」を開催しました。今回の歩み展は、後援会会員の松澤諭さんをはじめとするチーム・ユーチャリスが主催した、音楽家でアイメイト使用者の大石亜矢子さんのチャレンジコンサートとの同時開催として後援会が協力したものです。コンサートに訪れた多くの方にアイメイト協会の歴史や、アイメイトについて知っていただく機会にもなりました。

コンサートでは、大石さんはピアノの弾き語りでオリジナル曲を含む25曲を披露しました♪ほかに、大石さんが演奏する中、松澤美津子さんによる「スイミーの願い」の朗読があったり、ゲストの三輪たかしさん、加藤まことさんとコラボで“HEY JUDE”を歌ったり。最後には、総和第一幼稚園児50名と下大野小学校4年生29名も加わって、参加者全員(346名)で「ふるさと」を合唱しました。



大石亜矢子さん主演
第1回
ユーチャリス・ふれ愛
チャレンジコンサート

＜同時開催＞
盲導犬の父 塩屋賢一と
アイメイトの歩み展 in古河



大石さんとゲストによる“HEY JUDE.”



同時開催！！
「盲導犬の父 塩屋賢一とアイメイトの歩み展 in古河」

＜参加者からの感想＞ 総和第一幼稚園 主任 秋葉友美先生

子ども達と第二部「みんなで歌おう」から参加させて頂きました。…大石亜矢子さんのピアノと歌を聴いていると本当に元気が出たり、自然と楽しい気持ちになっている自分がいます。大石亜矢子さんのピアノを弾いている姿はウキウキ感が出ており、歌声を聴いていると声に歌う喜び・楽しさがにじみ出ているように感じました。…改めて大石亜矢子さんの歌を聴いて自分自身が「楽しい」と感じながら歌を歌ったり、活動することが周りの人達の心を動かすのだと感じ、大石亜矢子さんの前向きな生き方、周りの人達への感謝の気持ちに対し、感銘を受けました。

ステージ上に小学生と一緒に上がり子ども達は楽しいひとときを過ごすことができ、きっと子ども達の心に響いていることと思います。(一部抜粋)



全員で「ふるさと」を合唱

「第30回アイメイトチャリティコンサート」(主催:東京パイロットクラブ)が10月12日(土)にサントリーホール(東京都港区)で開催されました。毎年この時期に開催されているアイメイト支援の同コンサートは、第1部にアイメイト使用者が出演、第2部はオペラコンサートの構成です。今回は、4名のアイメイト使用者が、独唱、ピアノ演奏、講話などで出演しました。

主催の東京パイロットクラブでは30年前からアイメイトの支援活動を始められ、恒例行事としてアイメイトへ多大なご支援をされてきました。コンサートの収益をアイメイト協会へご寄付いただくばかりでなく、アイメイト使用者の出演を通して、アイメイトの啓発に貢献されています。

後援会はグッズ販売を実施させていただいています。開演前から終了後まで、特に休憩時間にはグッズをどっとお買い求め下さいます。クラブメンバーさんはじめ、来場者の方たちのアイメイトへのご理解が深く、多大なご協力をいただいています。

また、コンサート会場のサントリーホールのご協力も欠かせません。ロビーでのアイメイトグッズの販売に関して、通常は売り上げの10%をホールへ納める規則となっているところを、アイメイトには特別に免除していただいています。パイロットクラブからお願いしていただきましたが、快く受け入れてくださるホール側の温かいご配慮に他なりません。またホールのスタッフの方たちが個人的にもグッズを購入して下さいます。

アイメイト協会理事長ご夫妻が毎回招待されてきましたが、黒田清子さんもお出でになります。以前に皇后美智子さまと揃ってご鑑賞されたこともありました。コンサートに出演のアイメイト使用者には大きな励みとなっていることでしょう。



東京パイロットクラブとは

パイロットの名称は「リーダーと水先案内人」との事です。奉仕活動を目的に90年以上前に米国でパイロット・インターナショナルが発足しました。日本では終戦後にメンバーを募り、女性リーダーを中心に東京パイロットクラブが日本初のクラブとして誕生しました。現在は全国各地のクラブが活動しています。

1982年に東京盲導犬協会(現在のアイメイト協会)理事長夫人の塩屋和子氏に東京PC賞が授与され、その後「アイメイト東京パイロット1号」を寄付、以後アイメイトコンサートが恒例事業となり現在に至っています。(同クラブHPより)

元アイメイト使用者 橋本三郎さんに聞く 菜の花募金の 思い出

第2弾

シェパードのクララ、ラブラドル・レトリバーのカンナとともにアイメイト使用者として活躍し、協会の支援活動にも携わってきた橋本三郎さんに聞く思い出の第2弾。「菜の花募金の思い出」について寄稿していただきました。

■平成5年から3年間で7500万円の募金 ■アイメイトとの生活の中で一番の出来事

私のアイメイトとの生活の中で一番の大きな出来事は、現在も皆様に受け継がれている菜の花募金の活動です。この活動は平成5年4月より3年間行われ、チャリティコンサート・バザー各種イベントでのグッズ販売等々、平成8年の終了時には約7500万円の募金が集まりました。

そもそもこの募金活動の始まりはアイメイト協会が新しい訓練施設を作り、より多くのアイメイトを世に送り出すと言う目的に対し賛同し、私達同窓会員もこの趣旨に心を動かされ何らかの形で協力しようということでスタートしました。スタート時は同窓会員4名、後援会員2名、ガールスカウトリーダー2名の小さな菜の花でした。

そもそも菜の花募金ということで素朴でありながら沢山集まると見事な花となり利用価値も多く、その色は幸せの色であることから命名しました。最初は小さな花が日ごとに大きく広がり、大きな花畑となり、皆様の力強い精神と体力を得て多大な成果を得ることが出来ました。



◆募金活動でのひとコマ。
2頭目のカンナとともに
座る橋本三郎さん。

■温もりの残っていた50円玉の温かさ ■小さな気持ちの一つ一つがこの活動の趣旨

私も幾つかの活動に参加しましたが今でも思い出すのは山手教会での一場面です。それは幼い子供がおばあ様に連れられ、ずっと握りしめていた温もりの残っていた50円玉の温かさで私の心が複雑な気持ちになったことです。というのは、以前池袋での活動の時、酔っ払ったおじさんがカンナの前にしゃがみ込み臭い息で話しかけカンナは嫌がり横を向いてしまいましたが、すぐに向き直ったのがおじさんの気に入る、誉めながら1万円札を募金して頂いた時に、このおじさんは偉いと思っていましたが、先の幼子の50円玉を手にした時、金額の多い少ないを気にしていたばかりの自分が恥かしくなり金額にこだわらず小さな気持ちの一つ一つがこの活動の趣旨であることを強く思いました。

■不撓不屈^{ぶとうふくつ}の精神と利他^{りた}の心 ■いまでも支援者に受け継がれる精神として

菜の花の活動が20年も続いているのには皆様方のお陰様と感謝しております。きっと皆様方の心と身体には塩屋賢一氏の不撓不屈の精神と、私利私欲を捨て視覚障害者の為に一頭でも多くのアイメイトを育て上げようとして下さった利他の心が受け継がれているのでしょう。

勿論この精神は、先日黄泉^{よみ}の国に旅立たれた平井三敬さんにも通じていると思います。皆様より先に塩屋賢一さんに会いに行ってしまう残念です。きっと遠い所で塩屋賢一さんに「平井さんこんなに早くここへ来たら駄目だよ。ほら皆が悲しんでるよ」とでも言われているのに違いありません。しかしきっと虹の橋のたもとでクララやカンナをはじめ沢山のアイメイトに囲まれて、あの笑顔いっぱいいることでしょう。

続・太鼓で交流しています！

発表会の巻

2013. 10. 27(日)

前号(7月20日発行第58号)でご紹介した、和太鼓に取り組むアイメイト使用者のお二人と、お二人を太鼓に誘った後援会員の加藤さんたちの発表会がありました。その名も「太鼓王国2013」。

未来太鼓道場の東京・千葉・横浜で学ぶ、初心者からベテランまで150名近い塾生達が、普段の練習の成果を発揮して、それぞれ聞き応え、見応えのある演奏を披露して下さいました。



江黒さん↑

磯村さん↑



発表は、教室ごと、初級・初中級・中級などのグループごとにだいたい2曲ずつの演奏で、江黒さん、磯村さんのお二人は「東京・横浜初級」というグループでした。二人にとっては初めての発表会のはずですが、とても堂々としている上に、目が不自由だということを全然感じさせない素晴らしいパフォーマンスでした。

そして二人を太鼓の世界に誘った加藤さんも、中級クラスで勇猛な姿を見せてくれました。女性が多い中、やはり太鼓に男性は似合います。加藤さんは磯村さん達の控え室やトイレのことを女性出演者に頼んだり、アイメイトのワンツー場所を探して案内したり、ご自分も緊張しているはずなのに二人のことをとても気にかけていらっしゃいました。

ホール内には次々と太鼓の大きな音が鳴り響きますが、そのリズムは心地良く体に沁み込んでいくようでした。打楽器が大昔から人類に親しまれてきた最古の楽器の一つだからでしょうか。

全ての発表が終わった後で楽屋を訪ねようとする三人に出会いました。「見てくれた？」と声をはずませる磯村さん。江黒さんも、とてもうれしそうです。三人とも安堵と達成感で高揚しているようで、とてもいい笑顔でした。お疲れ様でした♪

みんな頑張りました！フラボー！！



磯村 千夏さん

楽しくて、あっという間に終わってしまいました。



江黒 知子さん

いつもと違う緊張感で楽しく盛り上がりました。



加藤 隆久さん

あー疲れた。練習の時よりテンポが速くて大変でした(汗)。

お店の人と話して、 考えたこと…。



～ある後援会員の体験より～

アイメイト後援会に入ってから数年。使用者の方と話したり、一緒に遊びに行くことも多くなった。飲食店での入店拒否という話も何度も聞いている。そうした中、今回の僕たちの体験は、「世の中ってまだこんな程度か」と改めて考えさせられた出来事だった。

◆キッカケ…

それは、ある居酒屋でのことだった。その日僕たちは芝居を観た帰り。アイメイト使用者を含む、同年代の男が3人だった。夕方、まだちょっと早めの時間だったが、僕が何度か入ったことがある飲み屋で一杯やろうということになった。その店のテラス席は、開放感があってとても気持ちいい。けれど、この時は夏のさなか。西日があたる屋外は暑すぎた。迷わず冷房の効いた店内に入り、アイメイトがのびのび休める奥の席に落ち着いた。

すると、店長がやって来て「すみませんが外の席でお願いできますか」と言う。僕らは、「どうしてですか？」と聞き返した。

「店内は犬は困るので、犬を連れてお客様は外でお願いしているんです」

「いや、この犬は盲導犬で、盲導犬は飲食店でもどこでも使用者と一緒に入れますよね」

「でもうちは犬は外のテラス席にご案内しているので」

「法律で、補助犬の受け入れはお店の義務になっていますよね」

「すみません、ちょっとわかりません」

「えーっ！？厚生労働省のホームページでも何でも見て調べてみて下さいよ、書いてありますから」

「分かりました、後で店が終わってから見てみます。今はちょっと見てる時間がないので」

結局、押し問答を続けていても仕方ないので、後でちゃんと調べてくれるならと、仕方なく“店の方針”に従ってテラス席に移動した。ちょっと腹立たしい気持ちと、残念な気持ちが入り混じってすっきりしなかったが、まあその夜は男3人で楽しく飲んで帰った。

◆次の日ボクがとった行動

次の日、僕は仕事の帰りにその居酒屋を訪ねた。別に怒っていたわけではないが、このままではどうにもおさまりがつかなかったのだ。補助犬法のポスターとパンフレットを厚生労働省のHPからプリントし、アイメイト協会のパンフレットも持参した。店長が約束どおり調べてくれたか、盲導犬の受け入れのことを理解してくれたか、直接会って聞いてみたいと思っていた。

少し緊張しながら店に到着。しかし、店長は休みということで、少し拍子抜けした。代わりにその場にいた店員さんと話をした。昨日、「ほんと、おとなしいですねえ」と目を細めて話しかけてきた女性の店員さんだ。店長に伝えてくれるようポスターやパンフレットを渡して説明し、僕の名刺も置いてきた。

◆アイメイト使用者の彼がとった行動

数日後、再びその彼（使用者）と会う機会があったので、僕が再度店を訪れたことを話した。すると、僕とは違うアプローチの仕方で、彼も行動を起こしていた。

彼の考えはこうだ。

- ・店と争うとか行政から叱ってもらうのは、自分はちょっと違うと思う。それで済むならその場でやればよい。しかし、そのまま放っておくのは良くないので、どうすれば良いか考えた。その町では、自分以外にもそういうことがあったと聞いたことがある。
- ・そして、役所に電話することにした。しかしその店を名指しでどうこうして欲しいわけではないので店の名前は言わなかった。
- ・結局、「補助犬法ができて10年が経つというのに飲食店への案内がきちんとできていないということではないか。だから、その地域の飲食店すべてに対して、きちんと周知してほしい。ポスターやチラシの配布、受け入れの講習などをきちんとやってほしい。それが行政としての義務ではないか」と伝えた。

彼の訴えが通じたことを祈りたい。



◆店長がとった行動

その店長は、約束通り店を閉めた後で、補助犬の受け入れについて調べてくれたようだ。僕が置いてきた名刺を見て、会社に電話をかけてきてくれた。そして、「盲導犬が店に来るのは初めてのことで、よくわからなかった。すみませんでした。今後是非いらして欲しい。この前も拒否したつもりではなく、今後はお客さんの一人として普通に対応したい」と言ってくれた。

◆だけど、ちょっと違う…

これで一見落着とも言えるのだが、次の店長の言葉に僕は「やっぱりわかってない」と思ってしまった。「今度来るときは、直前でも構わないので電話を一本入れてから来てほしい。電話があれば、準備がきちんとできるので。」

僕は、こういう話をした。

「店の中の席が良いか外の席が良いかは、その日の気候にもよるし、外の方が気持ち良ければ外を希望することもある。普通、空いていれば誰でも好きな方を選べるものだと思う。そして店に寄るときというのは、近くにきたから、じゃあ帰りに一杯やって帰ろうか、という具合に、やはり気分でその時の相手とのノリで立ち寄ることになるものだと思う。そういう時に、電話してからでなければ来られない、というのはどうなんだろう。予約が必要な店ならともかく。」

それでも、店長から先ほどの話が繰り返された。「きちんと対応したいから」「お待たせしないように」「店として準備をするために」「やっぱり事前に電話が欲しい」という。

全然分かってないな…。べつに特別扱いして欲しいわけじゃない。テーブルの準備が出来てなくて待たされたり、混んでて入れないというのは一向に構わない。要は、普通にやってくれればいいだけなのに…。

僕は、その昔、盲導犬が電車に乗るのに一週間前に申請を出さないといけなかったという時代があったことを思い出した。結局、わかってもらうには時間が必要なのかもしれない。アイメイトを使ってきた先輩方が、今までコツコツと積み上げてきた信頼と実績の上に、これからも根気よく理解を求めて話し合っていく。しなくて済むならしない方がいい苦労だけど、人がわかり合うためには時間と対話が必要なのかもしれない。そんなことを改めて感じた出来事だった。



さまざまな企業・団体がアイメイト事業を支援しています。例えば、収益金の一部を寄付するなどの経済的な支援や、歩行指導員を招いて、社員やお客様に向けたアイメイトの啓発活動の実施も、協会が目指す「共生社会」に向けた大切なサポートです。アイメイト事業を支援する企業・団体のさまざまな活動事例を3つ紹介します。

♥ 株式会社シード「Pureな愛(eye)をありがとうプロジェクト」

2013年7月31日(水)にシード本社にて、2回目となる「Pureな愛(eye)をありがとうプロジェクト」の贈呈式が行われ、塩屋理事長と大石歩行指導員が出席しました。

贈呈式終了後は、大石歩行指導員がアイメイトの訓練犬とともに、各フロアを回り社員の方々に、視覚障害や使用者、アイメイトについて説明したり、社員の方からの質問に答えました。



同プロジェクトは、“あなたの見えるが、誰かの

「見える」に”のキャッチコピーのもと、アイメイト協会を支援し、視覚障害に関する啓発活動の実施を目的に2011年7月にスタート。同社の使い捨てコンタクトレンズ「Pureシリーズ」の売り上げの一部がアイメイト協会に寄付されます。また、ヒロコさんとマユコさんが協会事業や使用者、後援会のボランティア活動などを紹介するブログを月2回配信しています。



♥ マルイグループ福祉会

マルイグループ福祉会は、マルイグループで働く人たちが会員となる団体です。同会は、毎年夏にマルイ全店をはじめ全事業所で会員へ募金を呼びかけ、アイメイト協会へ寄付しています。この募金活動は社会貢献の視点から、アイメイト協会を含む3団体を支援するものですが、アイメイトへの支援は“いつでもどこでもアイメイトと単独で外出できるアイメイト歩行を通じて視覚障害者の歩行の自立を助ける”という協会の理念に賛同し、2005年夏より継続的に行われてきています。

また、同会が会員向けに提供する「サービス介助士2級検定」取得講座では、見えないとはどういうことかを体感するため、受講者が目隠しをしてアイメイトと歩いてみる体験を行ったり、希望する会員が寄付の贈呈に同行し、アイメイト協会の事業に触れるなど、協会への理解を深める機会も作っています。



♥ 株式会社そごう・西武「盲導犬ふれあいキャンペーン」

10月20日(日)に西武渋谷店で開催された「盲導犬ふれあいキャンペーン」にて、アイメイト協会がアイメイト歩行体験会を行いました。来場者に歩行指導員が協会事業やアイメイト使用者について説明したり、店内に作ったコースを来場者が目隠しをしてアイメイトと歩きました。これまでも、同店にくわえてそごう川口店でもアイメイト協会は啓発活動を行っています。

株式会社そごう・西武は2003年から盲導犬育成事業の支援活動を行っており、全店に募金箱を設置しているほか、春と秋の年2回に全店で同キャンペーンを開催。店内でのデモンストレーションや体験歩行を通じて、視覚障害やアイメイト・盲導犬の理解促進や、育成事業への支援を呼び掛けています。また、店内の募金箱、社員の方からの募金、そごう・西武基金からアイメイト協会への寄付がありました。



後援会員の松野洋子さんは横浜市在住で、40年ほど前からボランティアに関わっている。当時近隣の地域で養護施設出身の子供たちを一軒家に住ませ家族同様の生活をさせる有志の会があった。その資金集めに手作り品など持ち寄りのバザーがあり、松野さんも参加して支援してきた。それがボランティアの始まりで、その後目の不自由な人たちと接する機会があり、「障害があっても前向きな姿勢に心が打たれ、又自分が手助けする事を感謝される喜びを知りました」と言う。仲間に誘われて入った山歩（さんぽ）の会では、視覚障害者と晴眼者が一緒に登山やハイキングを楽しんでいる。また神奈川県日本赤十字社ライトセンターで、視覚障害者誘導の講座を学び指導員の資格を得て、奉仕団員として地区の社協や日赤にも講話に出向き、県外にも足を運ぶなど積極的に活動してきた。そんな中…



自宅にて飼育犬と

アイメイトと出会ったのは後からで、知人を介して飼育奉仕を始めた。初めての飼育は不慣れながらも夢中で育てたので可愛さもひとしおだった。一年後に協会へ返した後は、食事が摂れず胃カメラで検査までして、ご主人も日課の晩酌が出来ないほどで、まさに夫婦でペットロス状態になってしまった。二頭目の飼育奉仕を申し込んだが、犬の居なかった二か月間はとても長く寂しい思いをした。そこで、以降は引き渡しの日次次の飼育犬を預かることを協会へお願いして今は9頭目の飼育犬が居る。この子が来る前の事…



神奈川新聞で活動を紹介（2010.11.8掲載）

楽しい船旅となった。それは…

船旅では専属バンドの演奏やダンスなどイベントは盛り沢山だが、それでも時間があるのでいろいろな方との会話が長い。そんな中、持参してきたアイメイトカレンダーを見せたところ、「可愛い～♪素晴らしい!」と好評だった。たまたま外国人の視覚障害者もいて、視覚障害者への接し方や盲導犬についてを語ったところ、皆さんが興味を持って耳を傾けてくれた。更に、改めて講話の機会を持つ事になり、船内新聞に掲載されて多くの人が集まってくれた。ほとんどの人は、初めて知ったとの事で盲導犬や視覚障害者福祉への関心はあるものの、ボランティアの経験は全くないという。募金や寄付などはしても活動には関心が無いのだ。まして、松野さんが楽しく喜んで奉仕しているという事が理解して貰えない。それでも3回程講話を重ねるうちに、「今後何かの役に立ちたい」などの声が上がってきた。こうして少しでも理解者があったことで、船旅の楽しい思い出がひとつ増えたのは間違いない。

松野さんは「多くの人にアイメイトを知って貰って、又視覚障害者がもし困っているのを見かけたら誰もが進んで手助けして欲しい。私はボランティア仲間や地域の人に助けられ、犬からは優しさと元気を貰って、楽しみながら啓発活動をしています。目の不自由な方たちの社会参加のお手伝いをこれからもずっと続けていきたいです」と言う。

可愛い飼育犬と自宅周辺の坂道もなんのその、軽い足取りの松野さんにエールを送りたい。





《イベント》

《参加者敬称略・順不同》

9/14(土) 聖心宮代祭(聖心女子大キャンパス) 大熊・磯村

長く続いた参加なので、開店と同時にアイメイトのテーブルをめがけていらっしゃるおなじみのお客さまもあります。触ることのできるワンちゃんとして参加している不適格犬ネディも、色々な方に声をかけて頂き大喜びですが、もうじき11才のおじいさん犬になりました。できる限り健康に気をつけて、また来年も参加したいと思います。磯村さんのアイメイトはお行儀よく、じっとフセをしていたら、お人形かと思ったという年配の男性もいて。(大熊)

9/16(月・祝) LC合同募金活動(銀座 数寄屋橋)

雨天中止

9/21(土) 東京学館学園祭(東京学館浦安校) 高山・東京学館インターアクト部

学園祭の参加はこの学校の教員である後援会員の協力により、またインターアクト部の深いご理解のおかげで毎年グッズ販売と募金をして頂いています。生徒の保護者の方も購入されて、グッズの手編みシリーズが今年も人気との事でした。

9/23(月・祝) 青山学院同窓祭(青山学院キャンパス) 飯島 2・森田・高橋 2・武田・山田・久我・磯村 2・筑波大学付属盲学校職員・青山学院同窓生・ガールスカウトOG

体験歩行とグッズ販売の他にアイメイト使用者の協力で、久我君 & アラジンのアイメイトクイズや磯村千夏夫妻の点字体験を実施しました。スタッフは募金担当、事務局などを分担で担当して、総勢 20 名。開催前から時間をかけて、メーリングリストで情報伝達をして共通認識を持ち、スタッフ間に一体感がありました。終わった後の打ち上げ(飲み会)で大いに盛り上がるのが楽しみの一つです。(飯島)

9/23(月・祝) 大石亜矢子チャリティコンサート 松澤 2・他

同時開催 “盲導犬の父 塩屋賢一とアイメイトの歩み展 in 古河”

詳細は“イベント紹介ページ”に掲載

9/23(月・祝) 動物愛護フェア川崎(川崎駅アゼリア地下街) 島田・水野京子・小泉・風間・菅谷

今回はステージのスペースの関係で、例年の体験歩行ではなく、協会指導員とアイメイトによるデモンストレーションがありました。来場者が真剣に聞いて、アイメイトにかなり興味をもって頂けました。デモンストレーション終了後にブースが賑わい、募金・グッズとも好評でした。(島田)

9/29(日) 青葉台福祉祭り(横浜市青葉台) 三村他

台風一過 秋の日差しがジリジリと人もグッズもこがすような暑い日でした。青葉台では他にもう一か所ライオンズが募金をしました。福祉祭りは二人で楽しく出来ました。(三村)

10/6(日) アイメイトデー(新宿区 京王プラザホテル) お手伝いスタッフ後援会員 38 名

詳細は“アイメイトデー特集ページ”に掲載

10/12~13(土~日) 古河関東・ドマンナカ祭り(古河中央運動公園) 松澤 2・水野(玲)・他 24 名(子供含む)

楽しみながらのお手伝いをモットーに、アイメイトの体験歩行と啓発活動ができました。(松澤)

10/12(土) LC 合同募金活動(上野) 城東 LC・小松 2・高澤・小俣 2・大西・鈴木 2・他

気温 31 度で“最も遅い真夏日”の記録となったこの日は、3 連休初日で親子連れなどでにぎわいました。暑さに弱い犬(11頭!)を心配しましたが、公園入口の銀杏の木陰で涼しく募金活動が出来ました。

10/12(土) パイロットクラブ アイメイトチャリティコンサート 井上他

詳細は“イベント紹介ページ”に掲載

10/19(土) 江東区民祭り(江東区木場公園) 大西・高山 2・鈴木 2・佐々木他

例年は土日の二日間でしたが、今回は土曜日のみ参加しました。2 日は雨天で午後から中止となったものの、2 日間の人出は 27 万人も。木場の角乗りなどもあり、人情あふれる下町のお祭りはなぜか心が落ち着きます。実は担当の二人とも下町生まれだから！すぐそばにドッグランがあり犬好きの来場者が多く、触れ合い犬達は屋敷のヒマもなく帰宅したら爆睡でした。(鈴木)

写真→

10/20(日) 西武渋谷店そごう 委託グッズ販売を

10/20(日) 川口市ボランティア見本市 して頂きました。



《イベント》

《参加者敬称略・順不同》

10/22(火) 明治神宮婦人部崇敬会 (明治神宮会館) 佐藤(典)・鈴木(節)

春と秋の年2回、都心の貴重な森のようなたたずまいの中、朝からバードリスニングも兼ねて参加することも。Tシャツが値下げで大人気でした。(佐藤) 写真一



11/3(日) としまふれあいバザール (池袋西口公園)

飯島 2・武田・森田・市川・佐々木・永田 2・水野(京)
・水野(玲)・ガールスカウト 100 団OG会

今年はアイメイト関連犬が5頭(去年は1頭)いたのでブースが賑わいました。野外ステージのアイメイトの登場では水野玲子さんのチトニアの歌で、声の美しさに驚き、その歌詞には胸が熱くなりました。来場者にもアイメイトのアピールが出来たと思います。指導員によるアイメイトのお話しをはじめ、パフォーマンスも素朴で温かさが伝わりました。体験歩行は公園の噴水の周りを一周しましたが、自然なコース作りがとても良かったです。スタッフの皆さんが適材適所で実に気持ち良く、的確に動いて下さり、楽しい一日でした。(飯島)

11/4(月・祝) 嵐山祭り (埼玉県嵐山町 国立女性教育会館)

田中島・山田・石田・他

熊谷LCから嵐山玉川LCに紹介されて嵐山祭りに初登場。会場は広々とした丘陵地に並木道など、人出も多く新たな出会いを楽しみました。(山田)

11/9(土) LC合同川崎駅募金活動 (川崎駅東口構内)

川崎橘ライオンズクラブ・長谷川・水野(玲)・古川
・小松 2・高澤・井上・金子 2・鈴木 2・他

大勢の人が行き交う川崎駅はアイメイトがすっかりお馴染みで、皆さんに良く理解して頂いています。LCメンバーの方に多数参加頂いて、いつもご協力に感謝しています。駅東口付近の構内は、「募金をお願いします!」の声も良く届くので募金活動が効果的です。成果も好調で、夕方には募金箱の重さが首にずっしりとキタ〜!(長谷川)

川崎駅東口階段を下りていくと左右に並んだ黄色い揃いのベストのメンバーとたくさんのラブがお出迎え。



* 来年 3 月までのこれからの行事は未定です。決定した場合は後援会ホームページ“のNEWS”に掲載します。



飼育日誌

アイメイトの飼育奉仕の実際をつづる飼育日誌の最終回。1歳と2カ月が過ぎ、いよいよお別れです。そして協会に返却した後は、どんなことを感じているか教えていただきました。

※協会の方針に則り、子犬の名前は仮名の「アイちゃん」としています。

とうとうお別れ

1歳と4カ月

アイちゃんは、ぴったり1年2カ月我が家に居ました。予想外に延びた2カ月間がちょうど梅雨の時期と初夏。雨でも外に行きたいアイちゃん。私はお散歩は気が重い。夏は普段より1時間早く起きて、慌てて顔に日焼け止めを塗って、少しでも涼しいうちにお散歩に出る。早起きが苦手な私…。

可愛いアイちゃんのためとはいえ、よく頑張ったな～。夕方夜もワンツールのための短めな散歩もサービスできた。夏の半ばに引き渡しということが分かっていたから、頑張れたのかも。

アイちゃんのためにやれることは充分やったという達成感と、夏のお散歩からの解放感で、淋しさと落ち込むということなく日々を過ごせました。

お別れのつらさは飼育の頭数が増えるにつれ慣れてくるというものでもありません。アイちゃんの前の4頭目のMちゃんの時は、お別れ予定の1週間前からつらくて、お散歩しながら涙が出てきて、鼻をかみながら歩いたものでした。

お別れした後でも1カ月くらいは、夜一人の時間ができると泣けてきたり、よその犬を見るとウルウルしてきたり。でも、今回は涙なし。だけどやっぱり、よくお散歩した道を通ると、心の中で「今日はお散歩に気持ちがいい天気だね～」「お花がきれいだね」と呼びかけてみたり…しちゃってます。

再会は？

協会に返却した後

「飼育奉仕の人は協会に返した犬にはもう会えないのですか？」という質問をいただきました。協会に返した最初の1カ月以内であれば、家族で協会に

会いに行くことが可能です。訓練が進んでからは、元の主人が出しゃばってはいけません。使用者さんのことを探すのもいけません。

ただ、アイメイトになれてもなれなくても、その子が何県に行ったかまでは、教えてもらえます。だから、その地方の天気なんかも私は気になります。

我が家は、1頭目と2頭目の時は、会いに行きました。最初はまだ協会に行ったことが一度もなかったもので、どんな様子か知りたかったから。2頭目の子は、家のトイレシートでしかおしっこをしない子だったので、とにかく心配で心配で、会いたくて。でも、大喜びして写真を一緒に撮った後、ちょっと里帰りして家に連れて帰れるわけではないので…。

3頭目4頭目の子は会いに行きませんでした。でも、この2頭は見事にアイメイトになれ、卒業前の銀座歩行で、離れた所から静かに見守ることができました。

以前、ある後援会員の方から、育てた子の使用者さんと直接交流はできないけど、協会に仲介を頼んで、卒業式の時に、飼育奉仕の様子を書いたお手紙と小さい頃の写真を付けて渡してもらった、という話を聞きました。So Good! 私も4頭目の子の卒業の時に、(名乗らずに)心を込めて手紙を書き、可愛い写真も一緒に、協会から渡してもらいました。

その後のアイちゃん

返却して1カ月後

アイちゃんには会いにいかないうちに1カ月があっという間に過ぎてしまいました。でも、指導員の方にお会いする機会があったので、様子を聞くことができました。「元気で、お腹もこわさず(よかったよかった)、アイちゃんは一人で静かにしているよりも、他の犬と一緒にいるのが好きみたいで

たくさんの思い出をありがとう。

飼育日誌 No.4

す（フムフム、そうだろう）。犬舎は上段で、ちゃんと自分の犬舎を覚えてぴょんと飛び乗ってお利口に戻っています。（おお、動画でいいので見てみたい！）」

その後の私

返却して約2カ月後

最近、近所の電気屋の閉店セールに行った時、写真立てのデジタル版、デジタルフォトフレームを衝動買いしてしまいました。14年くらい前にデジタルカメラに買い替えてから、フィルムのようにプリントせず、ほとんどの写真がパソコンの中で眠っ

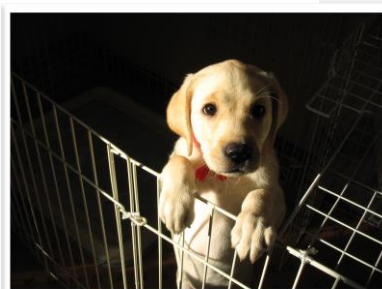
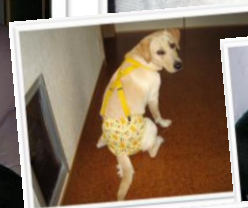
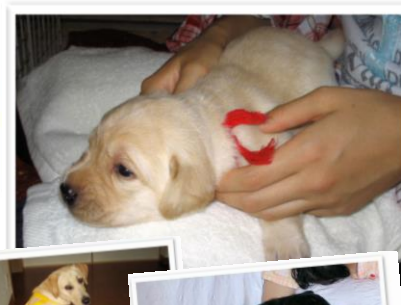
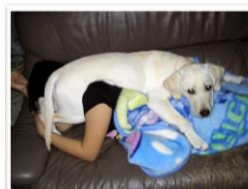
た状態でした。それが、つけっぱなしでも1カ月の電気代が約50円ということで、予定もなかったのに買い、4000枚の写真がよみがえりました！

幼い子供たちと可愛い子犬達がスライドショーで、時には短い動画も交えて私に微笑みかけてきたのです。イエローラブはパッと見の見分けがつきにくいのですが、一緒に写っている子供の年齢でどの子か見分けがつかます。これを見ると心が癒され、私の人生もまずまずだったな、なんて改めて思いました。

アイちゃん元気だね。ママは、アイちゃんがどこへ行ってもあなたのことは忘れません。たくさんの思い出をありがとう。



これまで飼育奉仕をしてきた5頭の子犬との大事な思い出の一部を大公開！



EYEMATE SUPPORT GOODS SIDE STORY



【イラストミニレター】各 300 円

アイメイトグッズ『イラストミニレター』のイラストは画家の上杉一道さんに描いて頂きました。

アイメイト後援会HP公式ブログ“グッズサイドストーリー”(文と写真～写真家・内村コースケ氏)より

前号のあらすじ…上杉さん夫妻とカヌー犬“ケビン”は全国津々浦々の川や湖へ行きました。ケビンが 14 才で天国へ旅立った時、その穏やかに微笑んだ表情をスケッチブックに描きとめました。3 年後、上杉さんは新しい家族を迎える決心をしました。…



ケビンへの感謝の気持ちを胸に、今を生きる彼の仲間たちに何かしてあげられることはないか。そう考えた末にアイメイト協会から不適格犬を引き取ることにしたのです。

不適格犬とは、訓練の過程でさまざまな理由によりアイメイトに向かないと判断された候補犬です。「不適格」という言葉の響きだけを取って、この呼び方に眉をひそめる人もいます。しかし、表面的な言葉の言い換えは、正面から事の本質をとらえることの妨げになりかねないと思います。国産盲導犬第一号のチャンピイの使用者、河相洌(きよし)さんはこう言います。「今は社会環境も随分改善されて障害者も生きやすくなっていますが、善意の皮をかぶった根本的な差別意識というものが根強く残っていると感じます。それに負けて弱くなっちゃっ

て、例えば「〇〇は差別語だ」などと末梢的なことにこだわって目くらまら立てるような狭い根性では、盲人が普通の人間と肩を並べることはできないと思います」

「不適格犬」を存在そのものが不適格な犬という意味にとらえるのなら、それは間違いです。アイメイトとしては不適格な犬—その理由はほとんどの場合、やや乗り物酔いをしやすいだとか、新しい場所に行った時のヨロコビの表現が少しだけ大きか

ったりとか、一般の家庭犬としては全く問題にならないようなことばかりです。視覚障害者とペアを組んで万が一のことがないように、厳しい判断が求められるのです。それに合わなかったからといって、アイメイトになった犬と比べて劣った存在だなんて関係者は誰一人思っていない。浅薄な価値観による差別をしないからこそ、アイメイト協会では設立当初から、そしてこれから「不適格犬」という呼び名を堂々と使っていくことでしよう。



上杉さんに迎えられたマービーは、出会ったその日からすぐに愛情を示してくれました。アイメイト協会の建物を出て上杉さんのキャンピングカーに乗り込むと、いつもケビンがそうしていたように後部座席の特等席に寝そべりました。ダックスのルークとクレアも最初は少しびっくりしたようだったけれど、すぐに仲間と認めてくれたようです。高崎へ行ったマービーはすぐに新しい環境に慣れ、上杉家の一員として早速カヌーにも乗っています。早くも大自然に抱かれる喜びを見出し、元気に跳ね回っているそうです。ケビンの「パーフェクト・ライフ」は、世代を引き継いで永遠に続くことでしょう。

(2013 イラストミニレターの章終わり)



「2014アイメイトサポートカレンダー」 出来ました！

『2014アイメイトサポートカレンダー』ができました～♪

カレンダーに登場する人たちの自然な笑顔が本当に素敵です。毎月、各ステージ(繁殖・飼育・現役・リタイア・不適格)のアイメイトを写真とコンパクトな説明文で紹介しています。撮影はもちろん、写真家・内村コースケさんです。



Photos: 内村コースケ
発行: アイメイト後援会／監修: (公財)アイメイト協会
サイズ: 見開きA3。13ページ
価格: 1,000円(税込)



裏表紙には各月の写真を紹介



さまざまなステージの
アイメイトの写真とコン
パクトな文で紹介。



特集ページは「不適格犬の
歩む道」。家庭犬として最
高のパートナーであること
と、呼称について協会のコ
メントを掲載。

カレンダー販売の収益はグッズ同様、全額アイメイト育成に役立てられます。皆様のご協力をお願いいたします！

『2014アイメイトサポートカレンダー』のお申込み方法

＜お申込み方法＞

●お電話(グッズ担当 鈴木節子まで)

TEL: 03-3878-7353

FAX: 03-3675-8588

e-mail: eyemate-goods@jcom.home.ne.jp

●アイメイトサポートグッズオンラインショップ

<https://ssl.shop.eyemate-support.org/> もしくは、「アイメイト後援会」で検索

プラスチック製のカ
レンダーホルダーが付い
て掛けやすくなりました♪



＜お支払方法＞

カレンダーに同封の郵便振込用紙(手数料無料)にてお振込みください。

送料無料！